

- P1 『青少年を非行・被害から守る県民大会』
- P2 『わたしの主張岩手県大会』最優秀賞
- P3 『わたしの主張岩手県大会』優秀賞及び優良賞
寄稿「ボランティア応援A君(小6)から、学ぶ」
今野 龍雄さん
- P4 いわて親子・家庭フォーラム
- P5 『いわて家庭の日』絵画・ポスターコンクール入賞作品
- P6 連載『統計からみた、いわての青少年』
- P7 地域活動支援事業報告
『メディア対応能力養成講座』開催案内
- P8 ボランティアコミュニケーションカフェ&養成講座
観武ヶ原まつり

青少年 いわて 10

平成 25 年度

『青少年を非行・被害から守る県民大会』



大沼えり子さん

大沼えり子氏講演より(抜粋)

「子どもたちは生まれてきたときは天使。非行に走ろうとか虐待にあおうとか、お前なんかいない、と思われるために生れてきていない。私たちが、心のある人たちが手を差し伸べ、言葉を差し伸べて、そして、助け合っていけば、心が寂しいがゆえにやっしまわなければならない子たちの非行は防げるんじゃないか、と思います。1人でも多くの子どもたちの心の支えになりたい、ちょっといい、少しだけのスパイスでいいと思っています。(歌を流して)この曲は生まれてきてくれてありがとう、生きてくれてありがとう、そんなメッセージをのせています。岩手でも、この想いが、たくさんの愛を、たくさんのやさしさを、子どもたちだけではなく、おじいちゃんやおばあちゃん、隣の人たち、皆さんに差し上げていただけるものと固く信じています。」

7月17日(水)、『平成25年度青少年を非行・被害から守る県民大会』が、いわて県民情報交流センター(アイーナ)で県民や県内の関係機関や団体などから400人が参加して開催されました。

昨年度の「わたしの主張」県大会最優秀賞の菊池愛利子さんは『命』をいただく仕事、また昨年度の「社会を明るくする運動作文コンテスト」事務局長賞の石川麗美さんは、「非行を生まない環境とは」と題し、それぞれ発表しました。アトラクションでは県警音楽隊が『あまちゃんテーマ曲』などの演奏を披露しました。

講演では、作家・保護司・DJなど幅広い活動をしている大沼えり子さんが「君の笑顔に会いたくて」と題して、少年院の子どもたちとの関わりや、保護司活動を通しての考え方を話しました。

最後に、岩手県青年団体協議会の高橋 蔵副会長が、青少年の非行・被害防止に取り組む県民運動の推進について大会決議文を朗読して閉会しました。

第15回「わたしの主張岩手県大会」 最優秀賞に中村奈緒さん（山田中3年）

9
19

9月19日(木)に矢巾町田園ホールで、「わたしの主張岩手県大会」が開催されました。

大会には県内17地区と開催地推薦の18名が参加し、最優秀賞に『「当たり前」の中に生きる』と題して発表した、宮古地区代表の山田中学校3年、中村奈緒さんが選ばれました。このほか、優秀賞に齋藤浩樹さん(姥屋敷中2年)と大崎明生さん(九戸中3年)、優良賞に伊藤 葵さん(北松園中2年)、高橋佑歩さん(矢巾北中3年)、田嶋香苗さん(和賀東中3年)が入賞と決まりました。

アトラクションでは、矢巾中学校の生徒が震災後行ってきた、被災地の人びととの交流活動の紹介発表、矢巾北中学校は手話を交えた合唱を披露しました。

県大会最優秀賞 「当たり前」の中に生きる

山田町立山田中学校3年
中 村 奈 緒



あの日、いつも通り「行ってきます」と言って小学校へ行くために家を出ました。まさか、この家にもう二度と帰って来れなくなるなんて思ってもいませんでした。

午後2時46分。小学6年生だった私達は、一週間後に控えた卒業式の練習を教室で行っていました。地鳴りとともにやってきた地震を今でも鮮明に覚えています。校舎が壊れそうな勢い、みんなの泣き叫ぶ声がしました。長い長い揺れがおさまり、校舎を出て校庭に避難すると、地域からも避難してきた人たちが集まってきました。揺れているのか揺れていないのか自分でも分からない、生きている心地がしませんでした。

「ゴォーッ」と鳥肌の立つ気味の悪い音がしました。間もなく「ドォンッ」という音と共に、大きな津波が防波堤を乗り越え、国道が海と化しているのが見えました。校庭は危険かもしれないと、校庭より高い位置にある池の周りに集まりました。

そんな時、母の姿が見えました。母は無事でした。しかし、私の家族はバラバラでした。父は漁師でその時、沖にいました。姉は中学校からバスで帰ってくる時間です。祖父母は秋田に旅行に行っていたので、全員が無事であるか確かめようがありません。一体何を考えたらいいか分かりませんでした。

「私だけじゃない。みんな同じ気持ちなんだ。大丈夫、大丈夫・・・。」

何が起きているのかを理解できない現実を、何とか受け止めよう何度もつぶやきました。

あの日を境にして、私達の生活は一変しました。幸い、私の家族は無事でしたが、今までの「当たり前」が当たり前ではなくなったのです。当たり前のように過ごしてきた家も、当たり前のように積み重ねてきた思い出も、一瞬にしてなくなってしまいました。何気ない「当たり前」がどれだけ大切で、ど

れほどかけがえのないものだったのか、私だけではなくたくさんの人が感じたことでしょう。

震災を経験し、私の中で変わった「当たり前」に対する思い。今、気になっているのは学校の中の「当たり前」です。

私の学校では、普通ではありえないことが「当たり前」になっています。牛乳パックをリサイクルせず、平気でゴミ箱に捨てる人。ひどい時には外に投げ捨てられています。他にも、二階の教室から物が投げられたり、校舎が壊されたりということが何度か起きています。誰がやったのか・・・正直に名乗り出る人はいません。注意しても無駄だと、そのような行為を「当たり前」に受け流している空気を感じます。そんなことが起きるたびに「悲しいな」といつも思います。牛乳を飲めること、学校に来れること、そんな当たり前のありがたさを忘れてしまっているのです。

私はこんな不当な「当たり前」を何とかして変えたいと思っています。私一人の力は小さいけれど、小さな勇気を出して声を上げることで、後に誰かが続けてくれるかもしれません。私は生徒会執行部として、現在、校舎を大切に作る運動を展開しています。

大切にしなければならない「当たり前」と、改善していかななければならない「当たり前」。山田に住んでいる私たちなら、「当たり前」がどんなに大切なものか分かるはずです。

あなたの周りにも、忘れかけている大切な当たり前はありませんか？また、身近に不当な当たり前はありませんか？見落としている大切な何かが、そこにはあるかもしれません。

当たり前を見直し、「当たり前」を高める。私達人間にとって、かけがえのない作業を、これからも、私は続けて行こうと思っています。

中村さん、全国大会へ出場！

10月17日審査委員会が行われ、中村奈緒さんが北海道・東北ブロック代表で、全国大会に出場することになりました。全国大会は11月10日、国立オリンピック記念青少年総合センターで開催されます。



発表の要旨



【優秀賞】

「兄の背中」

齋藤浩樹さん（姥屋敷中学校2年/盛岡西地区代表）

父親の入院で兄が家業の酪農を継ぎ、自分も搾乳の手伝いをする中で、仕事として酪農に取り組みたいと思った体験を紹介。「『手をかけた分だけ自分に帰ってくる』という父の言葉を信じて頑張っている兄に追い付きたい。」

「生きるということ」

大崎明生さん（九戸中学校3年/二戸地区代表）

牛の出産を手伝った経験を基に、支えられて生きていくことを実感したエピソードから、「たくさん挑戦して、たくさん失敗して、たくさん涙を流します。それが私の一生懸命『生きる』ということ。」

【優良賞】

「心をつなぐ」

伊藤 葵さん（松園北中学校2年/盛岡東地区代表）

被災地交流で訪れた岩泉町小本中学校との合唱交流、初めの戸惑いや不安を取り除いてくれたのは小本の人たち。そして一緒に歌った小本中学生徒との再会。人とのつながりや笑顔の大切さを感じ、「私たちにできる事は、よく知り、忘れずにいる事。みんなで前に進むこと。」

「明日への贈りもの」

高橋佑歩さん（矢巾北中学校3年/紫波地区代表）

体が不自由な弟が、人との関わりと努力で様々なことに挑戦していることを見習い、「生徒会活動は問題が山積みだが、目の前の問題から逃げず粘り強く取り組んでいきたい。自分の歩みが明日への贈りものになる。」

「命の尊さをかみしめて」

田嶋かなえさん（和賀東中学校3年/北上地区代表）

早産で命の危険もあるなか、産み育ててくれた母親の愛情と苦労や周囲への感謝をこめて、「尊い命を粗末にして、相手や自分を傷つけたりすることは、絶対にあってはならない。与えられた命の尊さをかみしめながら生きていく必要がある。」

（地区順に掲載しました）



矢巾北中の手話を交えての合唱

ボランティア応援

A君(小学6年)から、学ぶ



大船渡市立根町地区公民館長

今 野 龍 雄

（大船渡市青少年育成市民会議会長
（公社）岩手県青少年育成県民会議理事）

あの未曾有の大震災から早2年5か月余、今年も多くボランティアの皆様が、被災地大船渡市の支援・応援に駆けつけておられます。国内・国外問わず、現在も多く温かい応援、本当に感謝申し上げます。

さて、今は夏休み中（8月）、今年も学生中心が多いのですが、地域・親子での参画も多く、この立根地区館を寝泊りしての希望が多く、日々賑わっております。

そんななか、先日相模原市の地域・親子団体がやってまいりました。

早速、小学6年生のA君から、「館長さん！立根町（たっこん）、アイヌ語？」呼び名（地名）や・歴史経過、特にこの町の子どもたちが参画している郷土芸能（剣舞い、権現様等）についての質問が集中。

いや～、我自身の勉強不足を反省しつつ、何とかわかる範囲での説明をさせて戴きました。一方で、田舎ほど少子化で、後継者不足でたいへんであることも話しました。

そこでA君は、自分は今『郷土・相模原の神楽舞』を学んでいるとのこと。辛いこともあるが、楽しいことが多く、何よりも後輩や先輩、そして地域のおじさんやおばさん、多くの地域の皆さんと仲良く慣れて、とても勉強になります、との事。このA君から大切なことを学んだように思います。

とかく、今「地域づくり」は大変苦労で、まして子どもたちを取り込んでの「地域再生は」希薄であるとも言われています。是非、郷土の伝統文化を生かした地域づくりは“一考”で心強く思います。

終わりに、相模原の皆さんとの最後の夜の懇談では、お互いの郷土芸能を披露し懇親を深めました。



いわて親子・家庭フォーラム



盛岡会場 7/15

アイーナ
(いわて県民情報交流センター)



NHK「つくってあそぼ」でわくわくさんとしておなじみの久保田雅人さんを迎え、3回の講演をしました。特に「工作教室」は、参加募集開始4日目で定員に達し、わくわくさんの人気うかがえるものでした。軽妙なトークの中、牛乳パック等のエコロジーな材料で、いくつもの工作を親子で作ることができました。

親子のふれあいを深め、家庭における対話のきっかけとなるようフォーラムを企画し、子どもたちの楽しめる機会を設けました。



岩手女子高の茶道部、箏曲部、書道部による交流コーナーは、パフォーマンスも素晴らしく、子どもたちが日本文化に興味を持つきっかけとなりました。

宮古会場 7/16

宮古市総合福祉センター



二日目は平日でしたが、幼稚園保育園等の先生方や、幼稚園児たちがたくさん来てくれました。わくわくさんは、牛乳パックで園や家に戻ってすぐに見えるボールやコマの作り方を楽しく教えてくれ、一緒に参加した保護者も一所懸命作っていました。



声楽家の工藤和子さんによる「童謡ショウ」は、普段触れることのない珍しい楽器を使ったり、みんなで歌ったり、和やかな時間となりました。



家庭の日とは 親子・家族の絆を深める日

岩手県青少年育成県民会議では、青少年を守り育てる運動として『いわて家庭の日』を主唱しています。

青少年が健やかに成長するには、家庭の力が欠かせません。
『いわて家庭の日』は家庭を大切にし、実践する日です。

家族そろって食事しましょう
家の仕事を、みんなでしましょう
語り合い、教え合い、支え合いを大切にしましょう
家庭生活を充実させ、子育てを支援しましょう
早寝・早起き・朝ごはん

推進協力

岩手県・岩手県教育委員会・岩手県警察本部



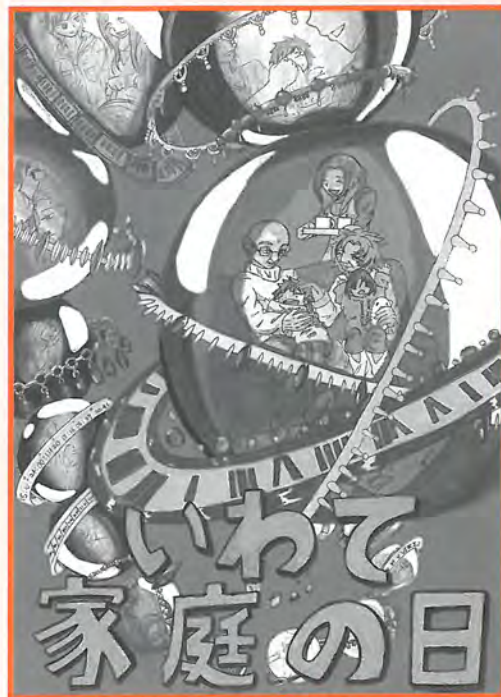
平成25年度 いわて家庭の日 絵画・ポスターコンクール 入賞作品

絵画ポスターコンクールは、当県民会議が主唱する「いわて家庭の日」啓発運動の一環として行っています。平成 25 年度は、県内 44 校 256 作品の応募がありました。選考委員による選考の結果、生徒の部では「いわて家庭の日（小澤 楓さん）」と、児童の部では「家族でかるた大会（地舘 凧海さん）」の作品が、最優秀賞に選ばれました。



【生徒の部】 最優秀賞

「いわて家庭の日」
岩手県立平舘高等学校 1 年
小澤 楓さん



【児童の部】 最優秀賞

「家族でかるた大会」
大船渡市立越喜来小学校 4 年
地舘 凧海さん



【児童の部】 優秀賞

「なかよし家族」
北上市立黒沢尻北小学校 4 年
小原 ののこさん



【児童の部】 優秀賞

「かぞくでかいすいよく」
盛岡市立本宮小学校 1 年
佐藤 蘭さん



【生徒の部】 優秀賞

「家族」
岩手県立大船渡高等学校 1 年
村上 佳菜子さん

作品展のお知らせ

絵画・ポスターコンクール
作品展及び入賞者表彰 in Kitakami
(入賞作品及び中部・県南エリアの応募全作品)

11 月 17 日(日) 11 時から 15 時
北上市民交流プラザ
さくら野百貨店ツインモールプラザ西館 2 階



10 月 31 日まで、aiina6 階ラウンジ（エレベーター前）で、入選作品と応募作品の展示をしています。
(盛岡広域エリアと県北・沿岸エリア)

統計からみる

いわての青少年

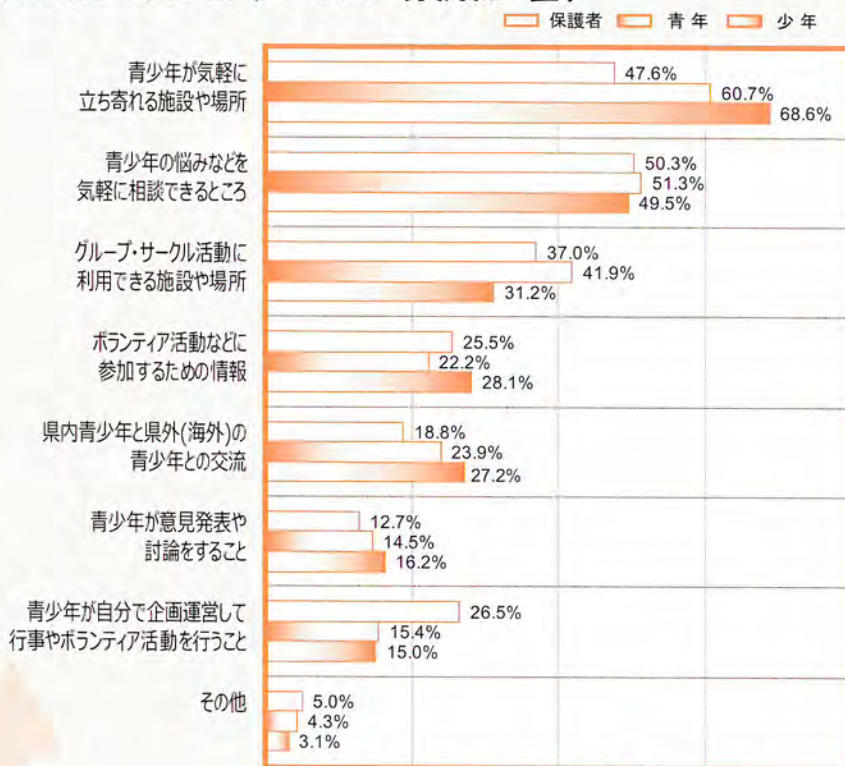
青少年に必要なもの？

岩手県(青少年・男女共同参画課)が県内に居住する中高生(少年)と保護者、20～24歳までの青年、それぞれ500人に対して行なった意識調査の報告書が、今年4月に発表されました。報告書は、少年には生活実態や考え方、保護者には子どもとの関わり方や今の中高生に対する考え方、青年には職業感等、多岐にわたる設問の回答が集約されています。

Q39.

次の中から、あなたが必要だと思うものを3つまで選んで○をつけてください。

Q39: 青少年に必要なもの(複数回答)



(少年N=481、保護者N=479、青年N=117)

H24年度「青少年の健全育成に関する意識調査報告書(岩手県)」より

この結果をみると、青少年・保護者とも「気軽に立ち寄れる施設や場所(居場所や活動場所)」を求めていることがうかがえます。

特に少年においては68.6%が「施設や場所」と答えています(男女では男性がより高い数値となっていました)。また保護者の47.6%からも、同様の回答がありました。

「悩みなどを気軽に相談できるところ」では、各世代ともに約半数を占めていました。

平成21年度の同様の調査結果においても、グラフの上位は同じ傾向にあることから、潜在的に必要とされていることが分かります。

「ボランティア活動などに参加するための情報」は、前回調査より少年・青年ともにアップしています。震災以来、様々な活動を目にし、ボランティア活動を希望する青少年が増えています。一方で、相

次ぐ災害によりボランティア不足で活動に苦慮しているところも少なくありません。情報の整理、集約、伝達が求められています。

青少年活動交流センター

平成18年にいわて県民情報交流センター(アイーナ)6階に「活動・交流・情報・相談」が基本的機能として整備され、青少年団体・リーダー等の活動推進と連携の拠点として、各種研修会(講座)の開催、関係団体との連携事業、悩みごと相談を行っています。

また、青少年に関する活動場所として「団体活動室」があり、無料で利用できます。

(利用にあたっては事前予約が必要です。県民会議会員は事務局まで、お問い合わせください)

11月は

『子ども・若者育成支援強調月間』

～いのち輝く みんなの未来～

です。

詳しくは内閣府HP <http://www8.cao.go.jp/youth/ikusei/25kyoutyou.html>

地域における青少年育成活動や団体等の諸活動支援のための「青少年育成地域活動支援事業」は、申請のうち4件を助成対象事業に決定しました。事業を完了した2件について報告します。

サマーキャンプ in 戸塚森

花巻市青少年育成市民会議

活動区分：体験活動・実践活動

事業名：サマーキャンプin戸塚森

目的：市内の小学校(19校)が一堂に会して、集団行動、野外活動の基礎を通じたリーダー研修を開催し、学校及び地域の子ども会リーダーとしての資質の向上を図り、もって青少年健全育成及び『ひとづくり・まちづくり』の推進に資する。

実施期間：平成25年5月21日～7月7日、サマーキャンプ7月6～7日(一泊二日)

実施場所：戸塚森森林公園(花巻市石鳥谷町)

参加者：花巻市内の小学生59名、高校生ボランティア12名、市民会議指導員他19名

合計90名

主な内容：野外活動の基礎(テント設営)、交流(キャンプファイヤー)、野外炊飯、レクゲーム等



助成額：30,000円

自然体験と被災地訪問

小鳥谷中学校3学年PTA「やまなみ」

活動区分：体験活動

事業名：体験教室と被災地訪問

目的：①野外宿泊体験を通して、基本的な生活手段を体験し、親子の触れ合いを深めると共に、地域の大人との交流を図る機会とする。

②東日本大震災を興味本位ではなく、実際に目で見て、心で感じて、体感したままを胸に刻み、今ある生命を見つめ直し、前向きに生きる大切さを感じる機会にしたいと考えている。

実施期間：平成25年8月31日～9月1日

実施場所：「名川チェリリン村」～田野畑村

参加者：一戸町立小鳥谷中学校親子 42名

主な内容：屋外キャンプの実施、三陸鉄道『震災学習列車』で被災地訪問等

助成額：40,000円

名川チェリリン村

〒039-0501

青森県南部町大字上名
久井字大沢民山内
(南部町の公設施設)



ネット社会に生きる子どもたちを守るために

『平成25年度メディア対応能力養成講座』

県内4カ所で開催します

岩手県と県民会議では、『メディア対応能力養成講座』を青少年健全育成の指導的立場にある方々を対象に開催いたします。

情報メディアは、必要不可欠なものとして普及・発達しています。一方、SNSを始めとしてネット利用による青少年の犯罪被害、加害等の問題もあつとを絶ちません。このような状況を理解し、対応できる能力の向上が求められています。この講座では、会場でパソコンやケータイの機器を使い体験による学習が行われます。

開催地と日程は以下のとおりです。参加ご希望の方は、県民会議まで

開催地区	開催日	時間	会場
県央地区	11月11日(月)	13:30～15:55	盛岡地区合同庁舎大会議室
県北地区	11月18日(月)		久慈地区合同庁舎大会議室
県南地区	11月22日(金)		一関地区合同庁舎大会議室
沿岸地区	11月25日(月)		宮古地区合同庁舎大会議室



ひとり1台の機器で体験学習をします





Volunteer Communication Cafe

ボランティア こみけにけーしょん かふゑ

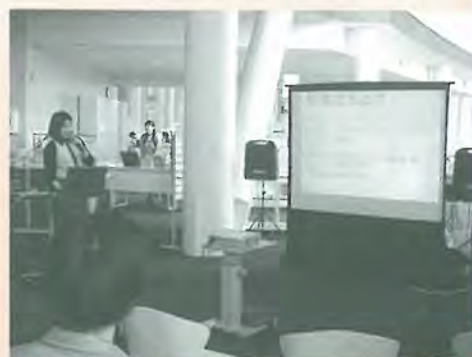
青少年ボランティア養成講座

6月30日から6回に亘って、開催された『青少年ボランティア養成講座』は、10月6日(日)の『ボランティア情報交流会〈ボランティア・コミュニケーション・カフェ〉』の企画運営をもって修了しました。16人の受講生のほとんどが高校生で、活動内容の話を聞いたり、「ボランティアって何だろう」と考えたり、もしものための救急法や活動の企画など、自分の目指す活動への基礎学習を行いました。今後は、青少年活動交流センターのボランティアとして参加、活動が期待されます。

『ボランティア情報交流会〈ボランティア・コミュニケーション・カフェ〉』は、活動している団体、グループ等の相互の情報交換を目的に、アイーナ6階ラウンジで開催しました。

活動展示ブースでは6団体が活動の様子やPRを行い、活動発表では、盛岡大学ボランティア委員会「結〜You〜」が、被災地支援の活動の様子を発表しました。

スタッフ(受講生)が淹れるコーヒーを飲みながら、来場した方々との語らいもある「交流会(カフェ)」となりました。



会員を募集しています

〇だれでも、いつでも〇

(公社)岩手県青少年育成県民会議は、個人や団体の会員の皆様の参加のもとに、地域での青少年活動及び育成活動を活発に展開する青少年育成運動を進めています。

この運動は、県民や民間団体など全てのエネルギーを結集して、次代を担う青少年の育成を目指しています。

この趣旨に賛同される方ならどなたでも加入できます。ぜひご参加ご協力ください。

青少年なやみ相談室

■相談内容 困っているとき、悩んでいるとき
青少年に関すること

■電話相談 **019-606-1722**

月・木 9:00~20:00
それ以外の日 9:00~16:00

※面接相談を希望される方は、電話予約をお願いします。

■メール相談 nayami@aiina.jp(毎日24時間受付)
※返信は、後日になることがあります。

「観武ヶ原まつり」でかき氷!

9月8日(日)、第22回「観武ヶ原まつり」が岩手県青少年会館の隣接地で行われました。雨上がりの会場には地域の子どもたちがたくさん集まりました。餅まきやステージ発表、ゲーム等、子どもたちの歓声と笑顔がいっぱいのおまつりとなりました。県民会議は今年も『かき氷店』を、ボランティアの高校生らと出店しました。



『観武ヶ原(みたけがはら)まつり』は平成3年に、青少年会館(盛岡市みたけ)に入居している団体を中心となって「地域に感謝したい」と、始められました。近隣の小学校の吹奏楽や町内会の手踊り、バザー、産直農産物販売などもあり、毎年賑わっています。

情報発信中

(公社)岩手県青少年育成県民会議

ホームページ: <http://www12.ocn.ne.jp/~ipayd/>

青少年活動交流センター

ホームページ: <http://www.aiina.jp/seishounen/>

facebook: Ya-center Aiina

twitter: ya_center